

脊椎内視鏡下手術 [Web 動画付]

吉田宗人 ● 編
中川幸洋 ● 編集協力

〔評者〕 松本守雄 (慶大教授・整形外科学)

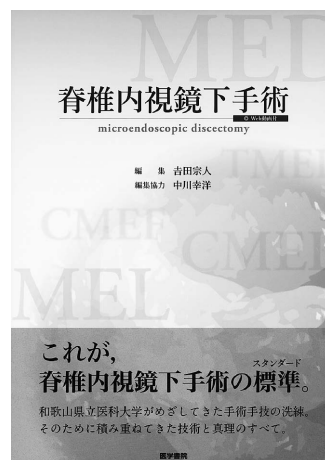
脊椎手術の多くは体の深部で行われるため、明瞭な術野を確保できるかが成功の鍵となる。大きな切開・展開をすれば視野はよくなるが患者への侵襲は増え、術後創部痛、脊椎不安定性の増悪、社会復帰の遅れなどの問題を生じる。いかに脊椎周辺組織を温存して低侵襲に手術を行い、これらの問題を解決するかが重要である。椎間板ヘルニアなどの脊椎疾患に対する低侵襲除圧手術としては長らく顕微鏡下手術が gold standard とされてきた。1990 年代に本邦に内視鏡下手術が本格的に導入され、パイオニアの先生方の多大なご努力があり、現在ではその手術数が全国で年間 1 万件を超える標準的な低侵襲脊椎手術になりつつある。本書の編者の吉田宗人先生 (和歌山県立医大名誉教授) はそのようなパイオニアのお一人である。

新しい手術手技の導入初期にはさまざまな技術的困難、手術機器、周辺機器の不備などの問題が存在するが、吉田先生はそれらの問題を 1 つひとつ解決され、脊椎内視鏡下手術を有効で安全なスタンダード手技として確立してこられた。本書には吉田先生とその門下の先生方が 20 年をかけて築い

てこられた脊椎内視鏡下手術のポイントやコツが美しいシェーマとともに贅沢に詰め込まれている。内視鏡下手術に必要な解剖、手術機器のセットアップ法と取り扱い法などの基本から始まり、疾患ごとの応用手技 (これも頸椎から腰仙椎、あるいは脊柱管内から外まで対象疾患が非常に多い!)、さらには合併症対策と全てが網羅されている。読んでいてここをもっと具体的に知りたいと思ったところは、実際の手術動画で確認できるようになっており、心憎いまでの配慮がなされている。

和歌山県立医大には脊椎内視鏡下手術手技の習得をめざして国内外から多くの訪問者があるが (小生もその 1 人である)、吉田先生以下、スタッフの先生方は大変な熱意をもってそれらの訪問者の指導に当たられてきた。本手術をスタンダードな手技として国内外に広め、脊椎疾患で悩んでいる患者の皆さんに恩恵をもたらしたいという吉田先生の強い思いがあつてのことと思われる。

本書は机上であつて、そのような指導を受けられる絶好のチャンスである。脊椎内視鏡下手術をこ



れから始める方、始めたが伸び悩んでいる方、さらには、経験は豊富だが自らの手技を再度見直したい方などすべての脊椎外科医にとって非常に役立つ手術手技書である。動画付きで 18,000 円は大変リーズナブルであり、ぜひ手元に置いて熟読することを薦めたい。

A4・248 頁

2017 年 6 月

定価：本体 18,000 円＋税

[ISBN978-4-260-03053-3]

医学書院 刊